

平成30年度 第1回我孫子市水道事業運営審議会 会議概要

- 1 招集日時 平成30年6月29日（金） 13時30分 開会
- 2 招集場所 水道局経営会議室
- 3 出席委員 藤沢 朋 成塚 充大
山本 憲志郎 今井 久美子
北島 多佳子 池田 進
原田 隆 中野 優
大友 敬三 近藤 ひろみ
(名簿順、敬称略)
- 4 出席説明員 水道局長（長塚 九二夫）
経営課長（中野 伴春）
工務課長（白坂 正基）
工務課長補佐（山下 透） 工務課長補佐（川村 憲司）
経営課長補佐（岡本 明美） 経営課長補佐（遠藤 忠信）
- 5 事務局職員 経営課主査長（洞毛 秀男） 経営課主査（加藤 正美）
経営課主任主事（松田 健吾）

- 6 会議に付した事項
議題

- ①会長・副会長の選出について
②諮問事項について

- 7 会議公開の状況 公開
- 8 傍聴者 1名
- 9 会議の内容

(1) 局長挨拶

・・・長塚水道局長より挨拶・・・

(2) 職員の自己紹介

(3) 議題① 会長・副会長の選出について

【会長の選出】

「我孫子市水道事業運営審議会条例第4条第1項（以下、審議会条例）」に基づき、委員の互選により、山本憲志郎氏が会長に推薦され、承認された。

【副会長の選出】

審議会条例第4条第1項に基づき、委員の互選により、成塚充大氏が副会長に推薦され、承認された。

(4) 議題② 諮問事項について

○平成29年度我孫子市水道事業会計決算見込み

○平成30年度我孫子市水道事業会計予算概要

・・・一括して中野経営課長より説明・・・

<意見等>

◇意見・質問 ◆回答

◇大友委員

平成29年度決算の無効水量が前年比で増加している。恐らく漏水によるもので、施設が老朽化している兆候ではないかと思うが、平成28年度、平成29年度の無効水量の増加は突出した傾向なのか、それとも経年による許容範囲なのか。

◆中野経営課長

徐々に無効水量が増えてきているが、平成29年度は、だいぶ目立つ増え方だと思う。

要因としては、老朽化した給水管や本管からの漏水と考えている。鉛給水管やビニールパイプなど材質が古く漏水しやすい管もあるため、こういった地区については集中的に優先度をあげて整備していきたい。

また、対症療法となるが、毎年約5,000件程度の漏水調査を行っているが、こちらも継続的に実施することで、数値（有収率）の評価を行っていききたいと思う。

現状の有収率は、相対的に低い状況ではないが、無効水量の数値形成には、注意していきたい。

◇中野委員

先般、関西地方で大地震が発生し、高槻市（大阪府）では、かなり高い水位で漏水があった。我孫子市の水道事業において、緊急事態が発生した際の閉めるべきバルブの数と対処方法を教えていただきたい。

◆川村工務課長補佐

浄水場における緊急的なバルブについて説明すると、まず、久寺家浄水場については、無人施設のため、緊急遮断弁という自動で閉まるバルブがあり、大地震で配管に漏水が起こった際に無駄に配水池の水が流出しないようになっている。

続いて、妻子原浄水場については、有人施設のため、漏水を人が確認してバルブを閉めることになる。

最後に、湖北台浄水場については、配水池が半地下式のため、配管の漏水による水の流出は起こらない。

◆山下工務課長補佐

道路下にある水道管は自動的に遮断する機能が付いておらず、震災等による漏水（噴出）発生の際には人力操作で弁を閉めるしかない。

また、震災対策として、气象台記念公園に耐震型緊急用貯水槽を整備し、付近の水道管が破損した際に自動で閉栓し水を確保する機能を持った施設がある。

◆中野経営課長

一般に大口径のバルブの場合、片方に水圧がかかると、手動ではバルブを閉められない状況もあるが、我孫子市のバルブでは、概ね大人2、3人いれば閉められるので、適宜、漏水部分を遮断することはできる。

ただし、緊急時にバルブが機能しないということがないよう点検などに努めていきたい。

◇池田委員

平成30年度の取組事業から、将来にわたり安定的に水の供給が出来る水道設備や管路の更新工事が布佐平和台等で始まっているが、市内全体の工事が完了するにはどれくらいの年数や費用が掛かるのか。

また、毎年約8億円の建設費用を計上しているが、今後、どのくらいの期間続き、事業収益に影響するかについても次期計画に織り込んでいく必要があるが、どのように考えているか。

◆長塚水道局長

向こう10か年の計画を作る中で今後、耐震化のスピードをアップするためには、工事量を増やした方がいいのか、その資金をどこから持ってくるかを含めて、計画の中に反映をすることを検討していく。

◆中野経営課長

将来的にどのくらいのコストが掛かり、更新需要がどのくらい発生するかというのは、財源見通しを立てる上でも重要である。

計画では、アセットマネジメントという手法により、更新の考え方を織り込んでいきたいと考えている。

◇池田委員

高齢化や人口減少などにより収益減が進む中、本当に公益事業だけでやっていけるものなのか。民間委託した方がよいのか。水道事業は、ライフラインを担っているので、十分検討のうえ内容を次期計画に織り込んで考えて頂ければと思う。

◇今井委員

1人あたりどのくらいの水を使ったら採算が取れるのか。

また、節水しなければいけないが、それでは、収益が上がらないという矛盾の中で、私たちはどのようにして暮らしていけば良いかという提案が欲しい。

◆中野経営課長

水道は大きな装置産業であり、相当な資本を抱えて水を供給している。

これらの固定費は、仮に1 m³の水を出さなくても掛かる。今後、固定費がどのくらい掛かって、どういう推移をしていくかは、これからの水道の構築の仕方次第である。

更新の考え方にもよるが、今のクオリティーをもって事業を進めていくと、最低限回収しなければならないという料金原価が水準になる。

一方、資源消費に掛かる観点からすれば、大事に水を使ってくださいという話にもなる。

◇今井委員

色々な事業を行っていくうえで、収益を重要視していると解釈しているので、基本計画に入れておいていただきたい。

◆長塚水道局長

水道事業は、法で定める独立採算方式を採用しており、水を売ったお金で事業経営をしていかなければならず、数十年先の将来を見据える必要がある。

そこで、我孫子市水道局が今どのような課題に直面しており、今後、どのようにしていくべきかといった現状分析、方針等について検討しているものが向こう10ヶ年の基本計画である。

(5) 我孫子市水道事業基本計画等策定概要について

・・・中野経営課長より説明・・・

<意見等>

なし

(6) その他

○平成30年度の利根川水系ダムの貯水量について

・・・川村工務課長補佐より説明・・・

○今後の水道事業運営審議会開催予定について

・・・岡本経営課長補佐より説明・・・

<意見等>

なし

15:00閉会

以上